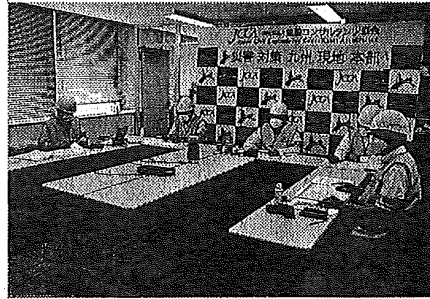


## 災害時の現地本部 立ち上げ手順確認

建コン協九州が演習

建設コンサルタント協会（建コン協）九州支部（田中清支部長）は1日、福岡市博多区の同支部で2022年度の災害時対応演習を行った。写真。宮崎県日向灘沖を震源とする大規模地震が発生した想定で、支部事務局に現地本部を立ち上げ、協会本部の災害対策本部、各支部をウェブ会議でつなぎ、被災状況の報告、各支部への支援要請などの



手順を確認した。演習は、午前11時に宮崎県日向灘を震源にマグニチュード7・6の地震が発生した想定で実施。2時間後

の午後1時に現地本部を立ち上げ、災害当日、1日後、10日後を想定して、現地の被災状況や現地からの支援要請と応援する各支部の分担案などを確認。最後は発生から365日後に支援が不要となり、対策本部の解散を報告するまで時系列でのやりとりを確認した上で演習を終了した。

九州支部では、支部会員153社に被害状況などを確認するメールを送り、各社から返信してもらう形で緊急連絡訓練を行った。また、九州地方整備局のリエゾン（現地情報連絡員）役の支部会員と、支援が必要な項目や人数、日数などの確認を行った。演習後に田中支部長は、福岡県の被害が大きかった場合に現地本部立ち上げが難しくなることを指摘し、「中国や四国など近くの支部に現地本部をお願いし、電話で現地の状況を伝えることになるかもしれない」と話した。また、リエゾン役を立てたことに触れ「連携を図るために九州整備局と一緒に訓練できれば」と希望を述べた。